

## 概 要

第 23 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～

テーマ：持続可能な子育て・教育にかかる助成のあり方について

(学童保育、私立保育所助成、乳幼児・こども医療費助成、学校給食、母子保健)

日時：令和 8 年 4 月 23 日 (木) 午後 6 時～午後 8 時

場所：中央公民館 ホール

参加者：36 名

出席者：森市長

企画経営部 羽田部長 他

市民交流部 古南部長 他

健康福祉部 田中次長 他

たからづかモデル推進担当 総谷部長

子ども未来部 政処部長

管理部 高田部長 他

### 《市長のテーマ説明》

持続可能な子育て・教育にかかる助成のあり方について資料に基づき説明を行った。  
(市民と市長の対話ひろば 4 月資料「持続可能な子育て・教育にかかる助成のあり方について」をご参照ください。) 持続可能性・公平性・将来負担・制度の質のバランスを重視し、市民との対話を通じて見直し案をブラッシュアップし、条例改正は 6 月議会に諮る。

### 《対話》

#### 1 参加者【市職員及び民間企業の副業解禁による働き方と税収増について】

- ・市の税収を増やすことが、子育て支援やインフラ、医療などの行政サービス改善につながる。
- ・税収増のための手段として、公務員および民間企業の副業解禁を提案。
- ・いきなり全面解禁ではなく、まずは「0 を 1 にする」段階的な取り組みから始めてほしいと要望。

#### ➡市長

- ・公務員については「公に資する」という特殊性から、利益を伴う副業には慎重な整理が必要である(無償ボランティアや家業は現状でも可能)。
- ・民間企業の副業については全面的に賛成しており、引き続き積極的に推進していく。

#### 2 参加者【医療費助成の有料化とオンライン相談サービスについて】

- ・過剰医療への対策では、医師の裁量は大きく指導による解決は困難との市長見解に対し、医師指導を徹底すべき。
- ・神戸市(0-3 歳児無償等)と比較し、宝塚市の「0 歳児から 600 円」は負担が大きいと指摘。薬局での支払いも含めると経済的負担が重い。
- ・オンライン相談では既読になるだけということはないのか、すぐに対応ができるのか

疑問である。オンライン相談に予算を割くよりも、窓口負担の軽減を優先すべきではないか。感染症の鑑別診断（インフルエンザ等）は、オンラインでは正確な判断や登校判断が困難ではないか。

→市長

・過剰医療について、医師への指導は裁量権等の問題から改善が難しい現実がある。過去の老人医療費の変遷等を考え、制度維持のためには受診行動を適正化する「自己負担」の導入が不可欠である。

・有料化の根拠として 600 円は県の障害者医療費助成等の枠組みを参考にしたもの。引き下げ検討は可能だが、その場合、検討中のオンライン相談サービス等の導入が難しくなるかもしれない。

・オンライン相談サービスは、速やかに対応する仕組みを考えている。

### 3 参加者【こどもの医療におけるモラルと薬の不適切な流通について】

・こども医療費助成の見直し（有料化）に賛成。

・「無料だから」という理由で安易に処方薬をもらい、使い回したり、不適切な使い方をしたりする現状に危機感を抱いている。

・子ども同士での薬の受け渡しや、忙しさゆえの薬への過度な依存、さらには薬の転売などのリスクがある。

・受診する側（保護者や子ども）にもモラルの問題があり、適正利用の意識が必要である。

→市長

・特に思春期の子どもたちのオーバードーズ（過剰摂取）が深刻な課題であり、処方薬が本来の目的外で流通している現状に強い危機感がある。

・「無料であること」が薬を手に入れるハードルを下げている側面がある。

### 4 参加者【私立保育所への助成金と今後の公民の役割について】

・人件費への充当のための助成金増額に対し、長年据え置かれていた現状を鑑みて感謝する。

・児童 1 人あたり 5000 円の助成削減について、公立・私立の保育士の格差是正という歴史的経緯を強調。現在は防犯対策などに活用している重要な資金であるため、維持を要望する。

・子どもの減少を前提とするのではなく、子育て政策への投資を通じて子どもを増やし、自治体自体が成長していくような前向きな施策を求める。

→市長

・歴史的経緯は理解しつつ、今後は少子化を見据え、公と民の役割を見直す時期に来ている。

・「公立を守る」のではなく「民間でできることは民間で」という考えのもと、公立は「公でしかできないこと」に役割を絞る方針である。

・保育園団体との協議を通じて、今後のあり方について議論を深めていきたい。

#### 5 参加者【学童保育の負担増と子育て支援政策の在り方について】

- ・神戸市等の他都市と比較し、宝塚市の医療費や学童費の負担の重さが、子育て世帯の流出や居住選択に悪影響を与えるのではないか。
- ・市や県での対応が難しいのであれば、学童保育の手厚い支援を国レベルで実施してほしい。
- ・学童保育費「1万2千円」への引き上げは家計にとって非常に厳しい。また、おやつ代の名目には教材費や消耗品費も含まれており、実態として保護者負担が重い現状を訴え、現行の「8000円以内」での維持を強く要望する。

#### →市長

- ・県の分析において、医療費等の拡充が必ずしも転入増に直結していないという調査結果がある。居住地の決定要因は医療費よりも交通利便性や住宅事情が主である。
- ・本市は財政力がとても高い東京のような大都市でもなく、過疎で地方交付税の恩恵を多大に受ける地域でもなく、「中途半端な規模の市」の財政的な厳しさがある。この不公平な構造については国へ声を上げ続けている。
- ・厳しい財政状況ではあるが、子育て世代の切実な声は重く受け止め、限られた予算内で知恵を絞りながら検討を続ける。

#### 6 参加者【子育て支援と困窮世帯への配慮について】

- ・経済的に困窮している子どもたちの実態がある。子どもたちが安心して過ごせる場を提供することが重要である。
- ・インフラ整備などの物理的な事業よりも、弱い立場に置かれた子どもや親への支援を最優先すべき。「誰一人切り捨てない」という理念の実行を要望する。
- ・子どもだけでなく、苦しい生活の中で自身の食事を我慢して子どもを優先する親の姿があるとし、親を含めた子育て世代全体のケアが虐待防止にもつながる。
- ・子どもは国の宝であるため、市単独の努力だけでなく、国に対してより抜本的な支援を求める姿勢を強化してほしい。

#### →市長

- ・現場の実態として、子ども食堂の活動や生活困窮世帯の厳しさを深く受け止める。
- ・高齢者向け福祉が先行した歴史に触れつつ、現在は若者や現役世代の困窮も深刻化していると分析。特定の層だけでなく、幅広い世代の困窮に対処する必要がある。
- ・参加者が提示した「親を含めた支えが必要」という視点も含め、現場の声として今後の政策検討に活かしていく。

#### 7 参加者【子ども医療費助成の維持と次世代への支援について】

- ・かつて助成がない時代を経験した世代として、子どもを社会で守るための「医療費無料化」は非常に価値のある制度である。
- ・医療費に一定の自己負担を設定しても、結局は「保護者が代わりにもらってくる」といった不適切な受診や使い回しが繰り返されるのではないか。

- ・学童保育の負担増など、子育て世帯の厳しい経済状況に理解を示し、可能な限り現行の支援を維持してほしい。
- ・財政見直しが必要な現状は理解しつつも、重症化しやすい乳幼児については無料枠を残すなど、制度のあり方を慎重に検討してほしい。

➡市長

- ・市においても過去の経済成長期に制度拡充が優先された背景があり、現在の厳しい財政状況につながっている。
- ・高齢者世代と現役の子育て世代では人生経験や経済状況への感覚が異なっていることを理解し、若年層が声を上げにくい状況を察する。
- ・参加者の「乳幼児は無料にする」等の意見や、学童保育を取り巻く経済的厳しさは重く受け止めており、単純な削減ではなく、限られた財政の中でどのようなバランスが最適か、精査と検討を継続していく。

8 参加者【予防医療への転換と健康的なまちづくりについて】

- ・医療費の適正化および健康寿命の増進に向けて、予防医療に注力することを要望する。
- ・市が取り組むフレイル（虚弱）予防等の活動に対し、健康増進につながるものとして期待を寄せている。

➡市長

- ・海外の事例（イギリスや米国のオバマケア等）から見ても、医療から予防へ舵を切ることが財政的にも必然である。
- ・子どもの生活習慣や保護者のライフスタイルが後の生涯の健康に直結することから、幼少期からの予防的アプローチが重要である。
- ・今後、財政健全化と市民の健康増進を両立させるため、散歩しやすい環境整備や健康的な食環境の提供など、予防を重視したまちづくりを進めていく。

9 参加者【市の財政改革と対話ひろばへの応援について】

- ・長年宝塚市に居住する市民として、これまで誰も着手できなかった歳出の削減に取り組む姿勢を評価している。
- ・財政健全化と市民サービスの維持という困難なバランス調整を行っている市長や職員の努力に対し、応援している。

➡市長

- ・市の行財政改革に対する理解と応援の言葉ありがたい。

10 参加者【医療費助成の制度維持と低所得世帯への配慮について】

- ・既存の医療費助成制度は重要であり可能な限り維持すべきとの立場。一律の有料化ではなく、本当に支援が必要な層を市が把握し、細分化した制度設計を検討してほしい。
- ・母子家庭や低所得者など、経済的に困窮している世帯については、「400円」などの一部負担ではなく、実質的な「ゼロ負担」も選択肢として検討すべきではないか。

・高度経済成長期を生きた世代としての反省を交えつつ、本当に支援が必要な人々にリソースを集中させる柔軟な制度運用を求める。

➡市長

・低所得者層への特別な配慮が必要という指摘は、他の市民からも寄せられている重要な意見である。  
・提示した内容はあくまで検討案（提案）の段階であり、市民からの意見を踏まえて制度のあり方を精査していく。

11 参加者【市政運営の透明性と改革の妥当性について】

・市が市民に負担増を求める前に、無駄の削減が限界まで行われているか、企業誘致やインバウンド施策などが精査されているか。  
・市長が市政運営について「胸を張って妥当と言える」状態であるのかを問いかけ、もし検討の余地があるならば、市民が納得できるまで再考してほしい。

➡市長

・市役所内の無駄の削減については最大限取り組んでおり、現状の施策には自信と責任を持っている。  
・伊丹市等の他都市と比較されるが、企業ニーズの把握や既存企業への対応強化など、税収増に向けた努力を継続している。  
・施策には妥当性があるが、市民に負担をお願いすることの重みは深く理解しており、今後も対話を通じた市政運営を行っていく。

12 参加者【学童保育の待機児童問題と新たな居場所作り】

・一定の理解はするが、待機児童対策を最優先すべき。  
・新3年生が多数待機児童となる状況がある。保護者が自ら居場所を探さざるをえないなど、市側の対応の遅れや周知のあり方に疑問がある。  
・無料の「遊ぼう会」の枠組みを参考に、安全に学び合える居場所づくりを他校区にも広げることで、低料金かつ質の高い預かり体制を構築できるのではないかと。

➡市長

・「遊ぼう会」の取り組みをモデルとして高く評価しており、同様の枠組みを他校区にも展開する準備を進めている。  
・地域のニーズを汲み取りながら、保護者や地域と連携して居場所を増やしていきたいとし、引き続き具体的な提案や協力を求める。

13 参加者【防災対策の強化と「アトム体操」の普及について】

・防災士の視点から、市内の水路に柵がない箇所があり、子どもたちの安全面で危険であると指摘。伊丹市等の他自治体を参考に、柵の整備を要望する。  
・宝塚市独自の「アトム体操」の認知度が低いとし、子育てやフレイル予防の一環として周知を強化すべき。

・財政難の中で市長が見せる笑顔は「生産性向上につながる手段」であると称賛し、引き続き前向きな市政運営を求める。

→市長

- ・防犯カメラに加え、水路の安全確保も世代を超えた重要課題であると認識している。柵の整備については担当部署と協議する。
- ・過去に「アトム体操」の普及活動を行っていたが、現在は認知度が低下していることを認め、今後はスポーツイベント等を通じて、改めて周知・普及に取り組んでいく。
- ・激励に対して感謝する。市政運営を前進させる。

14 参加者【学童保育の役割と料金改定の目的について】

- ・育成会は単なる「預かり」ではなく、支援員による成長発達の支援や、子ども同士の社会性を育む場所として不可欠な存在である。
- ・「遊ぼう会」のような緩やかな見守りと、育成会を混同すべきではない。経済的な理由で育成会への入会を断念させるような、利用者の選別につながる制度設計を懸念。
- ・すべての子どもが安心して育成会を利用できるよう、安全と安心を確保できる体制を維持・強化してほしい。

→市長

- ・育成会の支援員による子どもたちの成長支援を高く評価し、市として誇りに思っている。
- ・値上げは利用者を減らすためではなく、現在入れない子どもたちを含め、より多くの家庭が放課後の居場所を利用できるようにするための平等な拡充策である。
- ・負担増に対する市民の苦しさは重く受け止めており、全額同じ負担を求めるのが難しいケースへの配慮などを含め、引き続き精査・検討していく。

15 参加者【子どもたちの未来への希望と対話の継続について】

- ・現代の子どもたちが将来に夢を描きにくい状況にあることを寂しく感じている。
- ・今回の意見が市政にどう反映されたか、改善された点や課題を振り返る報告の機会（まとめの場）を、年度末などに設けてほしい。
- ・市民との対話の場を設けたことに対し感謝。

→市長

- ・子どもたちが夢を持てる社会の実現に向けた支援の重要性に深く共感する。
- ・本日のような対話の場を今後も継続していきたい。今回の意見に対するフィードバックや市政への反映については、持ち帰って検討する。
- ・いただいたすべての意見を真摯に受け止め、担当部署と協議しながら今後の施策に活かしていく。